

ニホンジカ (学名: *Cervus nippon*)

[ウシ目 シカ科]



▲黒谷で撮影されたニホンジカのメス
(2015年8月9日)

ニホンジカは、只見町では近年目撃される機会が増えてきた大型草食動物です。只見町で昔から狩猟をされてきた方々の話によると、20年ほど前から目撃が増えてきたようです。名前にシカがつき、形や大きさは只見町でも馴染み深いカモシカに似ています。しかし、カモシカがオス・メスともに短いツノを持つのに対して、ニホンジカはオスのみが枝分かれしたツノを持ちます。カモシカのツノは生涯生え替ることはありませんが、ニホンジカのツノは毎年春先から夏の時期に生え替るとい

違いもあります。また、ニホンジカは積雪のある地域でも生息していますが、カモシカと比べると雪が多い場所は苦手です。カモシカが普段は単独で暮らしているのに対し、ニホンジカは群れで生活するという点も異なります。

ニホンジカは、近年、生息数の増加に伴い森林や農作物へ被害をもたらすことが問題となっています。只見町から程近い尾瀬国立公園では、ニッコウキスゲといった湿原の植物や森林内の植物が食べられるという被害が深刻になっています。また、隣町の南会津町では既に農作物や自然植生への被害が出ているようです。只見町でも、今後、生息数の増加とそれに伴う植物や農作物への影響を注意して見ていく必要があります。



▲枝分かれしたツノをもつニホンジカのオスの頭骨

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

企画展示

「只見町の生物多様性を考える」 期間：2016年2月29日まで

ユネスコエコパーク登録一周年記念事業

研究成果発表会：2016年1月31日(日)午後1時～5時半

朝日振興センター 2階ホール 入場無料